

EPO 東北通信



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター



令和3年度



巻頭特集 「気候変動対策×主権者教育」プロジェクト 2・3

T opics

EPO東北

地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業	4・5
みちのく薪びと祭り・ビジターセンター交流会	6
ESG金融シンポジウム	7
パートナーシップ団体情報交換会	8

東北地方ESD活動支援センター

ESD地域拠点との連携事業	9
東北ESD/SDGsフォーラム2021	10・11
ESD for 2030学び合いプロジェクト	12・13

他団体連携

地球環境基金との連携・GreenGift地球元気プログラム	14
-------------------------------------	----

I nformation 刊行物のご紹介 8

P hoto Reports 共催・協力したセミナー 15

「気候変動対策×主権者教育」プロジェクト

一般社団法人 あきた地球環境会議 福岡真理子

世界での気候変動に対する政策は大きな転換期を迎え、議論も活発に行われていますが、今後の社会において、次世代の意見が政策に反映されることがとても重要と考えています。私たちは、気候変動対策を選挙等における争点に位置付けることができる市民を増やすことを目指し、気候変動に関わる環境教育として「気候変動対策×主権者教育」プログラムを構築し実施しています。

本プログラムは、気候変動を題材とした主権者教育に関する講義と体験学習を通して、身近な環境課題解決への行動促進と模擬投票による社会参画意識の向上を目指すものです。具体的には、「地球温暖化による気候変動の現状」を学ぶ講義からスタートし、次に学校の特色を生かした気候変動対策について、仮政党によるグループワークでの環境スクールマニフェストを作成する政策立案。その後、模擬投票を経て、当選仮政党のマニフェストについ

て、全員で「誰が、いつまでに、何を、どのように実現していくか、を、ロードマップワークシートを用いて具体化する行動実行計画を作成します。秀逸な計画には、『5年までに卒業生等から寄付を募って大型電気シャトルバスを購入し6年目から導入するが、7年目以降は自校の未使用時には地域の高齢者や児童が活用する。』や、『バイオガス発電施設を学校に設置し、近隣学校の給食残渣を回収して自校電気を全て賄い、6年目には環境教育施設として開放する。』等があります。これらの計画には落選した仮政党のマニフェストが活かされるだけでなく、気候変動対策を起点に考えられた政策が最終的には地域を元気にする、貢献するものとなって完成します。更に、数件の実行計画について校則や校内設備の見直しを図り、省エネ化を実現した高校もあり、大きな成功体験となりました。実施にあたっては、①意識や行動変容を促し、政治的中立性

「気候変動や地球温暖化」を学ぶ講義





仮政党によるスクールmanifestoの政策立案グループワーク(2019年撮影)
(講師：本プロジェクト検討委員長 島田先生)

や客観性を保つこと、②反対意見を尊重し、考えをぶつけ合うことを優先することで思考の多様性を尊重する、③パリ協定またはSDGs（特にGoal-13）に寄与することを前提として授業を進行し、目標を明確化することで理解を深化させる、等に配慮しています。

本プログラムでは、2030年をゴールとした実行計画を具体的に検討策定するところで、高校生一人一人の大きな成長が見られます。これにより、自らが責任を持って社会を創っていく思考形成と、将来的には地域イノベーションの核となる、あるいは政策決定等に関わる人材が育成されることが目標です。

参加高校生からは、「学校も一つの小さな社会だと思った。私たちの考えが、将来的に国を動かすことが分かり、もっと積極的に考えていこうと思った。」「一つの課題が解

決すると次の課題が見えて合意形成が難しかったがやり甲斐を感じた。」「気候変動対策を真剣に考えていきたい。」等のアンケート結果が得られ、事業目標達成への芽が見えはじめてきています。最後に、このプロジェクトは、“令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰”を受賞致しました。連携頂いている多彩なステークホルダーの皆様にも心より感謝申し上げます、これからも新たな進化と波及を目指していきます。



本物の記載台・投票箱を使う模擬投票(2019年撮影)
(連携協力：秋田市選挙管理委員会)



秋田市 穂積市長へ「気候変動アクション環境大臣表彰」受賞を報告
※写真撮影のためマスクを外しています。

地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

What?

環境省では地域でのSDGsの実践を目指し、令和元年度より「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」を実施しています。「地

	全体		東北
環境整備	新規	20団体	2団体
	継続	8団体	1団体
事業化支援		8団体	1団体

域循環共生圏」の創造に取り組む活動団体を公募し、令和3年度は36団体が選定されました。東北では4団体が採択され、このうち地域循環共生圏の構築に向けた環境整備に取り組む活動団体3団体に対してEPO東北が伴走支援を行いました。

→ 詳細はWEBサイトへ

環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏づくり プラットフォーム

検索

※環境整備:地域循環共生圏の創造に向け、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」「地域の核となるステークホルダーの組織化」の取組を実施する。

※事業化支援:R2年度までに選定された活動団体のうち、環境整備が十分整ったと認められた団体について、より具体的な事業計画を策定しローカルSDGsビジネスを具体化するため、支援チームの形成・派遣により事業化を支援する。

東北地区合同企画



情報交換会 東北ブロックサテライト会場

■情報交換会東北ブロックサテライト会場

開催日 2021年6月1日(火)~2日(水)
会場 HUMOS5 8F会議室大(宮城県仙台市)
主催 環境省東北地方環境事務所、EPO東北

※全体プログラムはオンライン開催

EPO東北では活動団体の取組みに対して、課題の整理や事業の進め方を一緒に探り、地域のコンセプトを描くコンセプトシート作り(通称:地域版マングラ)など、取組みのサポートを行いました。

■東北ブロック合同意見交換会

開催日 2021年9月28日(火)
会場 オンライン開催
主催 環境省東北地方環境事務所、EPO東北

また、活動団体同士によるコミュニケーションを通してプロジェクトのヒントを持ち帰ってもらうことを目的に、情報交換会と意見交換会を東北地区合同で開催しました。新規団体からは取組みに対

する不安や悩みが寄せられ、これに対して継続団体からはこれまでの反省点を踏まえて「地域の皆さんにどう楽しく関わってもらえるかが鍵になる」と助言があり、活発な意見交流の機会となりました。

東北地区 活動団体の取組紹介

【事業化支援】 宮城県石巻市

一般社団法人 Reborn-Art Festival

宮城県石巻市は、東日本大震災で甚大な被害を受けました。持続可能な復興を目指すため、食・音楽・現代アートを柱とした総合芸術祭「Reborn-Art Festival」を2年に1度開催し、地域の魅力の掘り起こし、交流人口の増加、地域産業の活性化や芸術祭を通じた移住・定住を目指してプロジェクトが進められています。本年度は「食」の視点からシンポジウムの開催や、地域の資源（未利用魚や鹿肉）の活用による商品開発を行いました。



食のシンポジウム

【環境整備／新規】 青森県八戸市

NPO法人 循環型社会創造ネットワーク

八戸市は製紙業、鉄鋼非鉄精錬業、セメント業など製造業が集中し、未利用熱活用のポテンシャルが高い地域です。化石燃料を使わない産業構造へのシフトに向けて、同業種企業の連携や他産業との連携・協働によるイノベーションを生み出そうと、行政、事業者、大学、研究機関、金融機関をステークホルダーとする協議会設立準備会が設置され、八戸版地域循環共生圏構築に向けた意見交換が行われました。



協議会設立に向けた準備会ワークショップ

【環境整備／継続】 山形県鶴岡市

三瀬地区自治会

豊富な森林資源、郷土の文化、ユネスコ食文化創造都市に登録される食文化などの地域資源を活かして、庄内地域で包括的な連携を生み出しそうと「森林資源エネルギー活用事業」「自然体験事業」の2つのプロジェクトに取り組んでいます。ステークホルダーと課題の整理や合意形成を進めながら、自然体験事業では関係者向けモニターツアーの実施、試験的な教育旅行の受け入れを通して、事業化に向けた具体的な議論が進められました。



関係者によるミニモニターツアー

【環境整備／新規】 山形県米沢市

米沢市役所

米沢藩9代目藩主の上杉鷹山は、莫大な借金で潰れかけた米沢藩の財政再建を一代で成し遂げた江戸時代屈指の名君として知られており、「持続可能な地域づくりの先駆け」とも言われています。地域の多様なステークホルダーが参画する米沢市SDGs推進協議会を創設し、「なせばなる「上杉鷹山流ローカルSDGs」」の実現を目指して職員向け研修会や市民向けセミナー・ワークショップ型勉強会を実施し、地域内の関係構築が進められました。



オンライン勉強会

みちのく薪びと祭り

開催日 2021年11月12日(金)
会場 サステナビリティ鳴子、エコラの家(宮城県大崎市)
主催 EPO東北

What?

東日本大震災では再生可能エネルギーの利用が注目され、各地で薪ストーブの活躍事例が多く見られました。EPO東北では活動の活性化とネットワークづくりを目的に、東北各地で薪をテーマに活動する団体が相互交流を行う地域開催型交流会「みちのく薪びと祭り」を平成26年度から実施しています。

Report

みちのく薪びと祭りは、これまで車座の議論を通して学び合いの機会とゆるやかなネットワークを生み出してきました

が、感染症予防の観点から昨年度より開催を自粛しています。この機会に、これまでEPO東北と一緒に企画運営に携わってきたキーパーソンの皆さんと一緒に、「みちのく薪びと祭り」

の成果を改めて振り返り、今後の開催の在り方を検討する会議を開催しました。

みちのく薪びと祭りは自分たちの取り組みの価値を新しい視座で学び直す機会であったこと、顔の見える関係性ができたなど様々な意見が出されました。また、地域開催とすることで地域内で取り組みの



キーパーソンの皆さんと車座の意見交換を実施

知名度が向上した、新たなステークホルダーとの連携が生まれたなど、開催地域の団体にとっても波及効果があったことが共有されました。今後は新しい参加者を巻き込むこと、人材を掘り起こしながらネットワークをつないでいく視点が大事である等の意見が出されました。

ビジターセンター意見交換会

開催日 2022年3月18日(金)
会場 オンライン開催
主催 環境省東北地方環境事務所、EPO東北

What?

EPO東北では2018年度から、東北地方の環境省直轄ビジターセンター・インフォメーションセンターを主な対象とした交流会を開催しています。東北地域でのネットワークづくりと学び合いの場づくりを目的としています。

Report

オンライン形式の会議や催事が定着し、新しい情報発信ツールとして動画配信が注目されています。ニーズに合った情報発信の在り方や手法を学ぶこと



使用している機材や編集裏話なども教えていただきました

を目的に意見交換会を開催しました。

ファシリテーターに(一社)コ・クリエーションデザインの平田裕之氏を迎え、「いずみキャンプチャンネル」で配信を行っているYouTuberのいずみさんから話題提供をいただきました。動画作成の際に意識すべき視聴者視点や留意すべき点について教えていただき、これから

の情報発信のあり方について意見交換を行いました。現地での体験をシミュレーションできる情報発信、撮りためた写真を数回に分けて更新頻度をあげる提案の他、東北のビジターセンターが連携して「東北チャンネル」を開き、毎日更新を行う展開があっても面白いなど、さまざまな意見が出されました。

ローカルSDGs(地域循環共生圏)シンポジウム in 秋田

開催日 2021年11月30日(火)

会場 秋田拠点センターALVE多目的ホール ※ハイブリット開催

主催 環境省東北地方環境事務所、EPO東北、一般社団法人あきた地球環境会議



パネルディスカッション「地域循環共生圏を実装するための秋田版ロードマップとは」



いただきました。地域創生のキーワードは人材であることや、教育現場は誇り教育へと転換する必要性が指摘されました。また東北の先進事例として、財務省東北財務局、(株)北都銀行、仙北市より取組事例をご紹介いただきました。

後半は「地域循環共生圏を実装するための秋田版ロードマップとは」をテーマに、登壇者によるパネルディスカッションを行いました。金融機関と市民社会の連携の可能性や、地域資源を大きく活用してビジネスとしての成立を目指すことの重要性、地域を良くするためには支える人材や新しいことにチャレンジする人材を育てること、そのためにも学校では地域のために学び小さい頃から社会変革を目指す教育へと転換する時期が来ているなど、多様な視点から熱い議論が交わされました。

What?

SDGsの採択やパリ協定の成立を機に金融の世界では環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)をといった非財務状況を加味する「ESG金融」の考え方が世界的にかつ急速に広がっています。ローカルSDGsの推進に当たっては金融機関とも連携した取組みが期待されていることから、ESG金融をキーワードに地域文脈に則った地域循環共生圏の創造について考えるシンポジウムを開催しました。

Report

ハイブリット型の開催により会場には35名、オンラインで32名、計67名の参加がありました。最初に「ESG地域金融の実装に向けて」と題して近藤崇史氏(環境省大臣官房環境経済課環境金融推進室室長)より、国内外のESG市場の動きや、実装に向けた国内事例についてお話しいただきました。続いて齋藤修一氏(福島県只見町教育委員会元教育長)から「只見生まれの米焼酎「ねっか」と地域未来」と題し、只見町の取組みをお話し

参加者の声

- ESG地域金融の実装が日本でかなり進んでいることがわかり大変良かった!
- 金融フォーラムと題している中で、さまざまな分野の方が登壇し、それぞれのつながりを感じることができた。課題解決を考える中で新たな仕組みや連携が生まれる可能性を感じた。
- 情報満載でとても勉強になりました。秋田でこのような会を主催されたことはすごいことだと思います。
- 各分野からの様々なチャレンジを知ることができ、大変に良かった。
- ESG金融の知識を得て育つ人材が前向きな未来社会を創るということを学びました。
- 素晴らしいシンポジウムでした。秋田の未来を感じました。

パートナーシップ団体情報交換会

開催日 2022年1月24日(月)
会場 オンライン開催
主催 EPO東北

What?

EPO東北では東北各県で円滑に事業を推進するために、県全域で活動する各県の団体と連携・協力をしており、「パートナーシップ団体」と呼んでいます。地球温暖化防止活動推進センターの指定を受ける団体等9団体で構成し、毎年1回、情報交換と学習の場を設けています。

Report

脱炭素・気候変動をテーマに開催し、話題提供では国が掲げる脱炭素達成に



オンライン開催の様子

向けた政策や東北地方環境事務所の取組みについてお話しいただきました。活動紹介では、現場や地域で脱炭素の取組みを進める上でのESD活動支援センターの役割や方向性、気候変動を主軸とした人材育成プロジェクトについてご紹介いただきました。後半の意見交換

では自治体から脱炭素先行地域に対する相談があること、企業が森林保全に取り組み、企業価値を高めながら地域との繋がりを試みていることなど、各団体から地域の情報や今後の取組みに対する意見が共有されました。

Information

刊行物のご紹介

「3.11あの時」シリーズ

EPO東北では東日本大震災発生後、現地の声を各地に届けようとヒアリングに取り組み発信してきました。あの時が起きたのか、支援活動の成果と課題、大震災からの教訓が詰まっています。



3.11あの時 教訓事例集

「東日本大震災から得られた教訓を知りたい」との声にお応えして、異口同音に語られた「学び」を事例集としてとりまとめました。

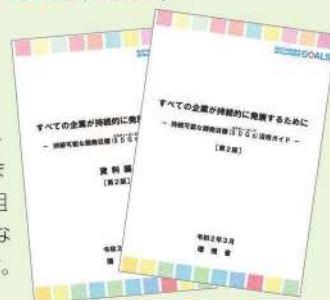
3.11あの時事例集

—中間支援組織 1年間の後方支援活動の記録—
多くの支援の手を現場に届けるために仲介役として奮闘した団体の、大震災発生から1年間に渡る活動の記録集です。

EPO東北ウェブサイトにてPDF版をダウンロードしてご覧いただけます。冊子をご希望の方には無料で配布いたします。

持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド

企業にとってSDGsに取り組む意義を説明し、具体的な取組みの進め方を示しています。既にSDGsに取り組んでいる企業の事例などが紹介されています。



- 持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド 本編
- 持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド 資料編

SDGsチラシ

「SDGsとは?」をわかりやすく取りまとめました。EPO東北ウェブサイトにてPDFをダウンロードできます。



- SDGsチラシ 子ども向け
- SDGsチラシ 一般向け

地域ESD活動推進拠点



地域ESD活動推進拠点



地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)登録制度

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした地域のESDを支援する組織や施設に、「地域ESD活動推進拠点」としてご登録いただく仕組みです。

地域ESD拠点の役割

地方センターや他の地域ESD拠点とも連携・協働して、ESDの活動や学びを深めること、学びの機会や場を広め、担い手を増やしていくことが期待されています。

東北地方の地域ESD拠点

3 NPO法人 環境パートナーシップいわて
岩手県盛岡市

6 気仙沼ESD/RCE推進委員会
宮城県気仙沼市

9 認定NPO法人 環境あきた県民フォーラム
秋田県秋田市

12 福島工業高等専門学校
福島県いわき市

15 只見町教育委員会
福島県南会津郡只見町

1 NPO法人 青森県環境パートナーシップセンター(AEPC)
青森県青森市

4 公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)
宮城県仙台市青葉区

7 一般社団法人 日本キリバス協会
宮城県仙台市

10 NPO法人 環境ネットやまがた
山形県山形市

13 いわきユネスコ協会
福島県いわき市

16 国立那須甲子青少年自然の家
福島県西白河郡西郷村

2 八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
青森県八戸市

5 公益社団法人 仙台ユネスコ協会
宮城県仙台市青葉区

8 一般社団法人 あきた地球環境会議(CEEAA)
秋田県秋田市

11 NPO法人 うつくしまNPOネットワーク
福島県郡山市

14 会津ユネスコ協会
福島県会津若松市

東北地方
ESD
センター

ESD地域拠点との連携事業

キリバス共和国War Memorisl小学校と 気仙沼市鹿折小学校 交流事業

主催 公益社団法人仙台ユネスコ協会

共催 一般社団法人日本キリバス協会、東北地方ESD活動支援センター

Report

仙台ユネスコ協会では、新学習指導要領に明記された「持続可能な社会の担い手」の育成に向けた取組みとして、「キリバスを切り口にした学校教育プログラムの創出」を展開しています。本年度はキリバス共和国と宮城県気仙沼市の共通点「海と生きる」に焦点を当て、両国の小学校をオンラインでつなぐ学習交流授業を行いました。4回の授業を通してキリバスとのつながり・日本とのつながりを互い学び、産業や環境の課題について考え、自分たちの取組みを伝えあい、課題解決に向けて一緒に何ができるかを話し合いました。



交流授業の様子

みちのくSDGs in あおもり ~人づくりから広がるSDGsのカ~

開催日 2021年10月17日(日)
会場 ウェディングプラザアラスカ4Fダイヤモンド(青森県青森市)、YouTube配信
主催 東北ESD/SDGsフォーラムあおもり実行委員会

What?

青森県内の地域ESD活動推進拠点
が中心となり、行政、企業、教育機関、
NPO等ESDに関心のある関係者と共
に実行委員会を立ち上げ、青森から
ESDを発信するフォーラムを開催しま
した。持続可能な社会の実現に向けた
「人づくり」をテーマとし、多様な主体の
参画を得ること、企画を通して青森県内
のネットワークを構築することを目的に
取り組みました。

Report

「ESD・SDGsをあおもり視点から学
ぼう!」をテーマに、青森大学SDGs研究
センター長の藤公晴氏と総合司会の西
川綾乃氏の対談形式による講演を行いま
した。参加者や視聴者に代わって西川
氏が質問を投げかけ、SDGsが登場した
背景や理念、とらえ方について藤氏に
解説をしていただきました。SDGsの概

念を表す構造モデル「SDGsウェディ
ングケーキモデル」を踏まえると、自然環
境の恵みを体験し、学ぶ機会を生み出
すことはSDGsの最前線であり基盤に
なること、青森県や地方部でSDGsを推
進するには自然の恵みを幅広く学
ぶ、学ぶための機会を作ることが大切
だとお話がありました。

後半の事例紹介は、1枚20秒のスラ
イドを20枚使ってプレゼンを行うショー
トプレゼンテーション方式で実施しま
した。青森ねぶたを解体してうちわを作る
「青森ねぶたSDGsプロジェクト」や、「誰
一人取り残さない地域防災」を掲げる
体験型・参加型防災教育、企業組合が取
り組む「問屋町SDGs宣言」など、高校生
や大学生の取り組み、企業や銀行・NPO
など、さまざまな分野から幅広い世代
の皆様にご登壇いただき、合計9つの事
例をご紹介いただきました。

また、場面転換時には20秒程度のCM



動画を配信しました。手話の推進に取り
組むサイレントボーカリストや、SDGsに
関心を持つアーティスト、子どもたちの
勉強を支援する学生ボランティア団体
など、フォーラムの主旨にご賛同いた
だいた方々のご協力のもと、皆さんの取
組みとフォーラムへのメッセージをお寄
せいただきました。

参加者からは「若年層との会話形式の
対話型講演で、身近に受け止めること
ができた」「ショートプレゼンテーショ
ンでたくさんの実践例に触れて、今後の自
分の活動に示唆を頂きました」等、たく
さんの感想をお寄せいただきました。



対面とYouTube配信によるハイブリッド形式で開催しました。



対談ESD・SDGsをあまり視点から学ぼう!講師 藤 公晴氏

東北各地で活動する団体のCM動画



ショートプレゼンテーション



参加者の声

- 学校として取り入れていく際に、地域ぐるみで活動していきたい。その際、地域を巻きこむための手立てや過程をじっくり考えてみたいと感じた。
- 大変参考になることが多く、学習することばかりでした。来て良かったです。ありがとうございました。
- 色んな分野で活動されている皆さんがいて、様々な視点があることに気付きました。
- 青森県すごいなと感動しました。様々な立場の方々が多様なつながりを広げる中で人づくり・しくみづくりをし、活動している状況を学ぶことができ勇気をもらいました。
- 事例発表を聴けて良かった。青森でも様々取り組んでいる団体があることに気づきました。仕事をしながらSDGsにつながる内容を実施していることに驚かされました。
- 青森のSDGsの動向を理解できただけでなく、今後の可能性をととも感じることができました。
- それぞれの発表から(特に高校生の取組み)各活動の輪が市民の方々に伝わっていくことで、2030年、その先の未来の世界は持続可能な世の中になっているのではないかと、希望を感じた。SDGs、ESD活動の波がますます広まっていきますように!!

地域の素材から考えるESD/SDGsの可能性



実践活動【東北の実践事例に学ぶ】(11月3日)

開催日 第1回 2021年10月23日(土)

第2回 2021年10月30日(土)

第3回 2021年11月 3日(水・祝)

会場 オンライン開催

主催 東北ESD活動支援センター

What?

ESD推進ネットワークの新たな活動として「ESD for 2030学び合いプロジェクト」がスタートしました。ESD推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向けて、ESDに関わる多様な主体が分野横断的に、協働・連携してESDを推進することを目的としています。全国8カ所に設置された地方ESD活動支援センターがプロジェクトを展開しました。

Report

東北ではESD実践者のすそ野を広げることが目的に、特に山形県の実践者に焦点を当てて3回のオンラインセミナーを開催しました。

第1回は地域の素材を活かした環境教育や防災教育をテーマに、2つの団体から取り組みをご紹介いただきました。

鶴岡市三瀬地区自治会からは、工務店やNPO、学校、保育園など地域のさまざまな連携のもと、自然体験のプログラムや津波避難道整備を通じた防災教育の実施についてご紹介いただきました。やまがたヤマネ研究会では希少種や外来種などの野生動物や自然を身近に感じてもらうと、野生動物や自然環境を調査する「地域レンジャー」、小学生高学年を対象とした「ネイチャースペシャリストクラブ」など、独自の取り組みを実施しています。後半は2つの事例を踏まえて、地域との連携の在り方や、地域の素材をテーマに取り上げるESD教育について活発に意見が交わされました。

第2回はやまがたESD・SDGs研究会にご協力いただき、ESDの授業実践を行う学校教諭3名に授業内容についてご発表いただきました。県産材を題材に

地域の人のつながりを通して学びを深める授業や食料生産を題材に環境・社会・経済の3側面を考える授業、田植え踊りを題材にして伝統文化の継承を取り入れた授業が紹介されました。参加者からは「達成感や見通しを意識したESDプログラムを提供し、生徒の自己肯定感向上に繋がりたい!」と、刺激を受けたことが伺える感想が寄せられました。

第3回は「東北の実践事例に学ぶ」をテーマに、青森、宮城、福島から4つの事例紹介を行いました。いずれの会も有識者やESD実践者から事例に対してコメントをいただくことで取り組みの価値を確認し、地域の素材を題材にしたESD/SDGs教育の意義について学びを深めるセミナーとなりました。

事例紹介をいただいた皆さんの活動の様子



仙台ユネスコ協会 キリバス共和国連携事業



三瀬地区 避難道整備(木質チップ敷き)



只見中学校 海岸清掃活動

参加者の声

- 教諭としてどう地域と関わっていくのか。求められる役割や責任について、改めて考えさせられました。
- 市民と一緒に取り組むことはお互いに刺激があり、参考にしたいと思いました!
- どの事例も地方の課題に地道に取り組んでいて、感銘を受けました。地域の営みと連携することが継続に繋がり、そこに地域の営みを教育に生かす価値があるとのコメントに気づきをいただきました。
- それぞれが地域のネットワークを生かしてまさにESDの学びを行っていることがとても素晴らしいと思いました。
- どの発表も大変参考になりました。特に只見中学校さんの事例では、ESD/SDGsの取組みには、「地域を変える」力があるということを示していただけたと感じています。
- 大変素晴らしい学びの場をいただきました。ありがとうございました。
- 皆さん、ありがとうございました。いくつもの種を拾いました。これから実がなるようにしていきたいです。
- いずれのご報告においても、大変しっかりと取り組んで成果を上げておられる様子を拝見し、今後の活動への勇気をいただきました。

他団体
連携

地球環境基金との連携

地球環境基金助成金説明会

2022年度地球環境基金オンライン助成金説明会

開催日	2021年10月25日(月)
会場	オンライン開催
主催	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
協力	EPO東北



オンライン配信の様子

What?

「地球環境基金」は民間団体(NGO、NPO等)による環境保全活動を広く支援することを目的として、独立行政法人環境再生保全機構が運営しています。2022年度地球環境基金助成金の募集を開始するにあたり、オンラインによる説明会を開催しました。

Report

2022年度地球環境基金助成金メニューの紹介や東北内で助成を受ける団体からの事例紹介を行う説明会をオンラインで開催し、東北内外から環境活動団体など15名が参加しました。「国際協力」をテーマに、実際に助成を受けた団体から活動内容や助成を受けるメリット、活動の変化をご紹介いただきました。合わせて、申請書を書く際に意識したことや工夫したことをお話しいただきました。最後に、地球環境基金から2022年度の助成メニューの紹介と参加者からの質問に回答いただき、希望者には別途オンラインの個別相談が行われました。

他団体
連携

Green Gift 地球元気プログラム

Report

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。EPO東北は各支店と環境NPOの連携をお手伝いしています。

東北では青森県、岩手県、山形県でプロジェクトが実施されました。感染症対策を行い参加人数を制限しながら、小川原湖(青森県)でのカヌー体験と生物観察、中津川(岩手県)での川遊びが行われました。また、山形の自然や野生動物を楽しみながら学ぶカードゲームの開発が行われました。

➡ 詳細はGreen Gift
地球元気プログラムWEBサイトへ

Green Gift地球元気

検索



親子で水辺体験!中津川で環境学習と川遊び

Photo Reports

持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方へウェビナーシリーズ



主催 東北大学大学院教育学研究科・環境科学研究科／
一般社団法人東松島 みらいとし機構

日時 2021年11月17日(水)、2022年1月12日(水)、3月9日(水)

会場 オンライン開催

EPO
活動支援

SDGsの本質を捉えること、参加や協働をデザインすること、国連・ESDの10年を活かして「探究」を設計することをテーマに、全3回開催されました。意見交換や質問タイムが設けられ、講師と参加者がつながるプログラムとなりました。

第1回気仙沼ESD／ユネスコスクール研修会



主催 気仙沼市教育委員会、気仙沼ESD／RCE推進委員会

日時 2021年6月11日(金)

会場 気仙沼中央公民館 会議室2～4(宮城県気仙沼市)

ESD
共催

新学習指導要領の趣旨を踏まえた探求的なカリキュラム・マネジメントのあり方を再考し、ESDを通じた変容を把握する評価について国内外の情報、実践から学ぶ研修会が行われました。

上山市教育研修会 社会科部会



主催 上山市小中学校教育研修会

日時 2021年11月10日(水)

会場 上山市立南小学校(山形県上山市)

ESD
活動支援

社会科教員向けにESD/SDGsを学ぶ研修会が行われました。ESDプログラムの事例紹介もあり、宮城教育大学の市瀬智紀氏より講評をいただきました。

みんなで考えよう～地球温暖化で秋田に住めなくなる!?自分たちができることは?～



主催 秋田県南NPOセンター

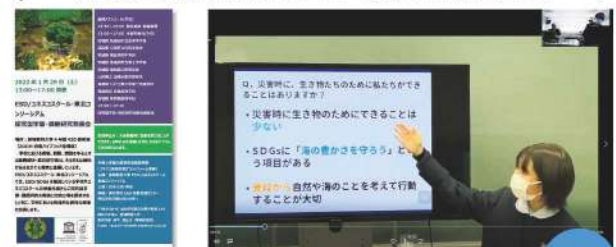
日時 2021年12月4日(土)

会場 南部ハーモニープラザ(秋田県横手市)

ESD
共催

地球温暖化をテーマに取り上げ、横手市の未来を想像しながら今できることを考える交流会を開催しました。

2021年度 ESD／ユネスコスクール・東北コンソーシアム 児童生徒の探究型学習・課題研究発表会



主催 国立大学法人宮城教育大学ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム

日時 2022年1月29日(土)

会場 宮城教育大学 ※ハイブリット形式(宮城県仙台市)

ESD
共催

ESD/SDGsを推進している学校やユネスコスクールの学習・研究発表会が行われました。東北各地から9校の参加があり、児童・生徒の皆さんが取り組みを発表しました。東北コンソーシアムのウェブサイトでアーカイブをご覧ください。

EPO東北とは

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的として2006年7月に開設されました。

持続可能な社会を目指したよりよい環境活動を進めるためには、行政や企業、市民、団体など、さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協力していくことが重要です。たくさんの方がEPO東北をきっかけにして出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

→ 詳細は、EPO東北ウェブサイトへ

EPO東北 <https://www.epo-tohoku.jp/>



東北地方ESD活動支援センターとは

「ESD活動支援センター」は、ESDの更なる推進に向けて創設された官民協働によるプラットフォームです。地方ESDセンターは全国8カ所に設置されました。

東北地方ESD活動支援センターは青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県を対象に、学校や行政、企業や専門機関、市民など、さまざまな主体の取組みをつなぎ、皆さんのESDの活動がより活性化し促進されるよう支援します。

→ 詳細は、東北地方ESD活動支援センターウェブサイトへ

東北ESD <https://tohoku.esdcenter.jp/>



メールマガジンのご案内 EPO東北や東北地方ESDセンター、環境省からのお知らせ、環境に関する催事や助成金・募集情報をお届けしています。
 ■発行/毎月2回(第2週、第4週) ■登録/EPO東北ウェブサイトの「メルマガ登録のご案内」よりご登録ください。

オフィス案内

各種資料の提供

環境やESD、SDGsに関する情報や資料を展示・提供しています。



ミーティングスペースの無料貸出

打ち合わせ、会議、小規模セミナーにご利用ください。



- 利用時間帯/10:00~18:00(月~金)
- 利用料金/無料、3日前まで要申込
- 利用人数/6名まで

※感染症対策をしています。利用のガイドラインはEPO東北ウェブサイトでご確認ください。

- 休館日** 土日祝、お盆、年末年始
- 業務時間** 平日 9:30~18:00
- 住所** 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23仙台第2合同庁舎1F
- TEL** 022-290-7179 (EPO東北)
022-393-9615 (東北地方ESD活動支援センター)
- FAX** 022-290-7181 (共通)



地下鉄勾当台公園駅「公園1」出口より徒歩3分、
JR仙台駅から徒歩15分

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



表紙写真: 秋田県鳥海山 イヌワシ(撮影者:長船裕紀氏)
画像提供元: 猛禽類保護センター・鳥海イヌワシみらい館

2022年3月発行